

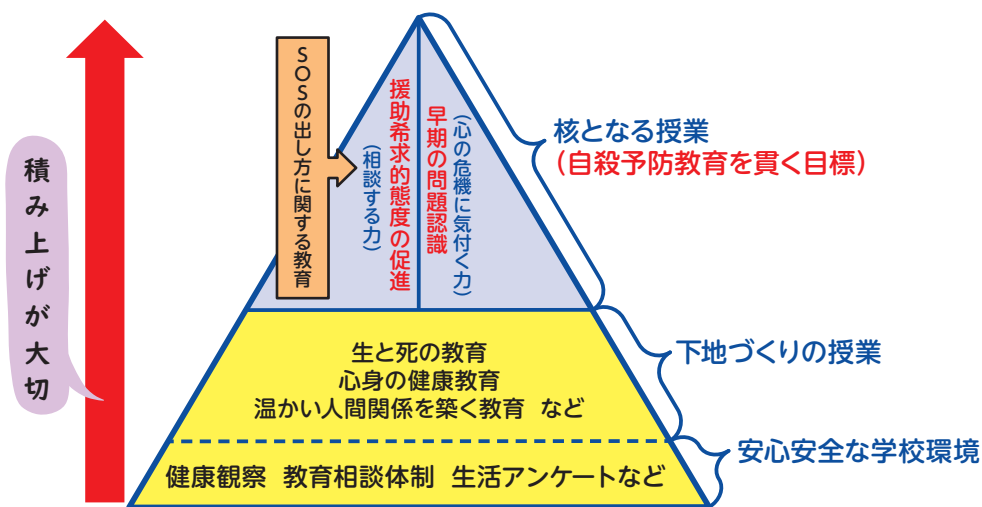
自殺予防教育の目標

学校における自殺予防教育の目標は、

「**早期の問題認識(心の健康)**」「**援助希求的態度の育成**」です。

心の健康についての正しい知識と理解をもち、困ったときに人に相談する援助希求的態度をとれるようになれば、生涯にわたる精神保健という観点からの自殺予防にもつながります。

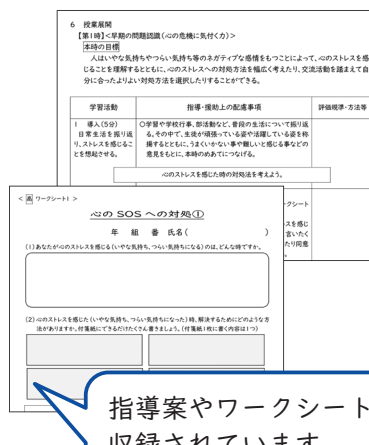
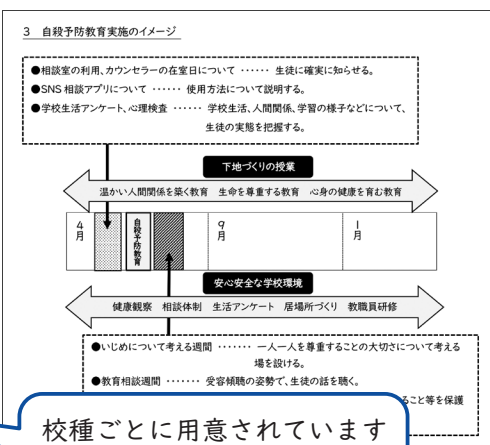
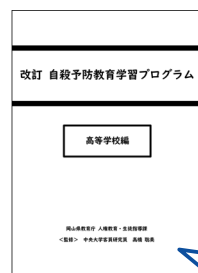
日頃の教育活動の中に、自殺予防教育の下地づくり（基盤）となる内容が多く含まれていることを認識し、自殺予防教育と連動させ、児童生徒及び教職員の抵抗感を少なくすることが必要です。



生徒指導提要（文部科学省）より作成

自殺予防教育に使える教材

自殺予防教育学習プログラム
及び校内研修資料等



教職員のみなさんへ

児童生徒自殺防止対策リーフレット

気付いていますか？

～SOSを見逃さない～





本のマークのページ数は
児童生徒の自殺防止対策基本方針をご覧ください。



「教職員の体罰・不適切な指導・ハラスメント等による児童生徒の自殺防止対策基本方針」

児童生徒が出すSOSのサイン

詳しくは、
5ページへ

自殺のサインは多様です。
児童生徒の小さな変化を的確に捉え、自殺の危険を早い段階で察知しましょう。



SOSのサインを察知したら…

本人に寄り添った対応(危険が高まったとき)

児童生徒が抱えている悩みをしっかりと受け止め、寄り添うことが大切です。
安易に励ましたり、叱ったりすることは逆に傷つけてしまうこともあります。

そのためには、「**TALKの原則**」をもとに対応しましょう。

Tell

言葉に出して心配していることを伝える
(例)「あなたのことが心配だわ。」

詳しくは、
6ページへ

Ask

「死にたい」という気持ちについて率直に尋ねる
(例)「どんなときに死にたいと思うの?」

Listen

絶望的な気持ちを傾聴する
(例) あせらずに聴き役に徹する

Keep safe

安全を確保する
(例) 1人にしない 複数人で対応

児童生徒のSOSに気付く校内体制

自殺の危機を察知するのは、本人の訴えはもちろんのこと、身近な保護者、友人、担任、関係教職員の気付きからであることが多いです。
校内の体制やご自身の言動を振り返りましょう。

詳しくは、
3ページへ

できていると思う項目に☑をしてみましょう

①相談しやすい雰囲気づくり

- ☐ 受容と傾聴を意識しながら子どもと関わっている
- ☐ 保健室や相談室が気軽に利用できる場所になっている
- ☐ SOSをキャッチする体制が整えられている

(例) 生活アンケート(年2回以上)、教育相談週間

1人1台端末を活用した心の健康観察の活用 等



②言葉にならない声への気付き

健康観察時、学校生活全般で「児童生徒が出すSOSのサイン」はないですか?

- ☐ 表面に現れた行動の背後にある、児童生徒の心の動きを敏感に捉えることができている
- ☐ 学年会や教育相談部会などで情報を共有している
- ☐ 保護者と連携を図っている

(例) 良好な人間関係づくり、スムーズな情報共有 等



③多角的な視点を生かした児童生徒理解

- ☐ 担任だけでなく、学校図書館司書や給食調理員なども含めて全職員が学校全体で教育しているという認識をもっている
- ☐ 学校全体で情報を共有できる体制が整えられている



受容と傾聴を
意識した関わり

詳しくは、
2ページへ

教育相談体制を
見直すポイント

詳しくは、
4ページへ